

多くの「つながり」がみられた体育大会

六中だより



文責 樹
宮川 英

前日に台風が接近し、準備が十分でなかったこととグラウンドの状態を考慮し、体育大会は当日の午後からの開催となりました。
地域のテントもほとんど準備できない状況でしたが、多くの保護者や地域の方々に生徒たちの頑張りを見ていただくことができました。
限られた条件の中、生徒たちは今までの学習の成果を十分に発揮することができました。



体育大会を終えて

【赤団木村団長より】

僕は、団長としてみんなをまとめる自信がありませんでした。最初の練習の時、自分が言いたいことを、わかりやすく説明することは難しいと思いました。
それでも一生懸命頑張った、本番ではみんなが協力して大きな声を出して最高の体育大会にすることができたのでよかったです。

【白団末永団長より】

来年は、二年生、一年生が中心になって頑張ってもらいたいです。最初は団がまとまらず、悩んだ時もあったけど、最後にはチームが一致団結できて最高の体育大会になったと思います。

【小川生徒会長より】

コロナ禍の中の開催ということになり、かなり縮小された大会となりました。例年のように声を出せず、マスクを付けた状態での練習はきつかったです。
ですが、体育大会本番、生徒たちはそんなことを感じさせないようなすばらしい演舞、プレーをしていました。全員の思いが一つとなった体育大会となりました。

人権標語 代表作

気軽に使えるSNS 言葉の重さ 忘れずに

どこだろう 冗談といじめの 境界線 一年田上さん

見てるだけ? ひとりひとりが 考えて 一年水永さん

「大丈夫」 その一言で つながる輪 二年福田さん

花咲かせ 個性色々 虹色に 二年諏佐さん

気付いてよ 笑顔の中の 裏の顔 二年橋崎さん

やさしきで 人との絆 大切に 二年板坂さん

見て見ぬふり それもいじめと 一緒だよ 三年鶴田さん

三年柿原さん

あとがき

息子が中学生の頃まではよく腕相撲をしていました。「まだまだやね」とか言いながらも勝って内心ほっとしていました。しかし、息子が部活での筋トレやプロテインの効果で筋肉が付きだした高二ぐらいからは、勝負を避けるようになりました。負けそうだったからです。

息子もその頃から「腕相撲しよう」とは言わなくなりました。おそらく、私の気持ちを察してくれたのかもしれない。体育大会で、毎年恒例である三年生の綱引きがあり、その中で親子対決がありました。

結果は親の圧勝でした。生徒たちは「親にはまだかなわない」と感じたと思います。また、保護者の方々も「まだ負けられない」と思われたと思います。

そのうち子どもが力強くなる時がやってくるでしょう。そして、子どもたちの力強さは「やさしさ」へ変わっていくことだと思います。

綱引きは、鶴田学年委員長の声かけにより保護者の方々に積極的な参加をしていただき、とても楽しいプログラムとなりました。御協力ありがとうございました。